

2023年度 シラバス (講義要綱)

2023年度入学生
環境情報学部



卒業必要単位数（環境情報学部）

【2023年度入学生】

区 分				卒業必要単位数				
全学共通科目	共通基礎科目			必修	14単位	留学生は日本語で4単位	必修 20単位を含めて 58単位以上	合計 130単位以上
	共通教養科目	語学選択科目		選択	4単位以上	留学生は日本語で4単位以上		
		一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上			
			人文科学系列	選択	4単位以上			
			自然科学系列	選択	4単位以上			
	共通応用科目	キャリア必修科目		必修	6単位			
		キャリアスキル科目	キャリア選択科目	選択	いずれかのユニットを選択し、選択したユニットからの10単位以上を含めて、14単位以上			
			各ユニット	選択				
		特別科目		選択				
学部専門科目	学部基礎科目			必修	8単位		必修 20単位を含めて 72単位以上	
	演習科目			必修	12単位			
	専攻間共通科目			選択	6単位以上			
	環境科学専攻			専攻必修	いずれかの専攻を選択し、選択した専攻必修6単位を含めて、30単位以上修得すること。さらに、専攻外(他専攻・他学部)で4単位以上修得すること。			
	メディア情報専攻			選択				
	他学部開設科目			選択				

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年 次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ ……半期週1回開講 ◎ ……半期週2回開講 集 ……集中講義 ▲ ……その他の開講 ……不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 ……他学部所属教員 非 ……他大学、他組織所属教員 空白……本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
実務	実務家教員授業科目

環境情報学科(23カリキュラム)

区分	2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								区講 分師	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
共通基礎科目	「人間たれ」Ⅰ	2	○								兼	岩崎 恭典	1			
	「人間たれ」Ⅱ	2		○							兼	青木 陽子	2			
											兼	浅井 雅				
	四日市学	2			○						兼	岩崎 恭典				
	基礎コンピュータⅠ	2	○									青木 陽子	3			
												片山 清和				
	基礎コンピュータⅡ	2		○								青木 陽子	4			
												片山 清和				
	基礎英語Ⅰ	2	○									樋口 晶子	5			
											非	武藤 和成				
基礎英語Ⅱ	2		○								樋口 晶子	6				
										非	武藤 和成					
基礎日本語Ⅰ	2	○									非	伊藤 晴苗	7		留学生科目	
										非	角田 延之					
基礎日本語Ⅱ	2		○								非	安田 由紀子	7			
										非	伊藤 晴苗					
										非	角田 延之	8		留学生科目		
										非	伊藤 晴苗					
										非	角田 延之					
										非	安田 由紀子					
語学選択科目	英語コミュニケーションⅠ	2			○											
	英語コミュニケーションⅡ	2				○										
	中国語Ⅰ	2			○											
	中国語Ⅱ	2				○										
	ポルトガル語Ⅰ	2			○											
	ポルトガル語Ⅱ	2				○										
	海外語学研修a(英語)	2		▲												
	海外語学研修b(中国語)	2	▲													
	日本語中級Ⅰ	2			○										留学生科目	
	日本語中級Ⅱ	2				○									留学生科目	
社会科学系列	政治学概論	2	○								兼	吉川 和挟	9			
	経済学概論	2		○								鬼頭 浩文	10			
	社会学概論	2	○								兼	三田 泰雅	11			
	社会福祉概論	2	○								非	李 修二	12			
	日本国憲法概論	2	○								兼	中西 紀夫	13			
	民法概論	2		○							非	土志田 佳枝	14	○		
	人文科学系列	哲学概論	2	○								兼	フェリペ フェハリー	15		
		文学概論	2	○								兼	永井 博	16		
		歴史学概論	2	○								兼	浅井 雅	17		
		教育学概論	2		○							非	長谷川 誠	18		
地理学概論		2														
心理学概論		2		○								田中 伊知郎	19			
化学概論		2	○									牧田 直子	20			
地学概論		2	○								非	森 康則	21	○		
生物学概論		2		○								田中 伊知郎	22			
数学概論		2	○								非	金岩 稔	23			
情報科学概論	2	○									池田 幹男	24				
データサイエンス概論	2		○								片山 清和	25				
											前川 督雄					
キャリア必修	キャリア基礎a	2	○	○							兼	高田 晴美	26		オンデマンド	
	キャリア基礎b	2				○										
	キャリア基礎c	2					○									
	ビジネスマナー	2				○										
	ビジネスコミュニケーション	2					○									
	インターンシップa	2				▲										
	インターンシップb	2					▲									
	キャリアのための日本語力Ⅰ	2					○								留学生科目	
	キャリアのための日本語力Ⅱ	2						○							留学生科目	
	共通応用科目	ビジネス英語a	2	○									樋口 晶子	27		
ビジネス英語b		2		○								樋口 晶子	28			
ビジネス英語c		2			○											
ビジネス英語d		2				○										
ビジネス英語e		2					○									
ビジネス英語アドバンスⅠ		2					○									
ビジネス英語アドバンスⅡ		2						○								
英語リーディングⅠ		2					○									
英語リーディングⅡ		2						○								
ITリテラシー		2	○									柳澤 翔士	29	○		
基礎力養成ユニット	Webプログラミング1	2		○								池田 幹男	30			
												片山 清和		○		
	Webプログラミング2	2			○							柳澤 翔士				
	文書表現ツール1	2		○								池田 幹男	31			
	文書表現ツール2	2			○											
	データ操作ツール1	2				○										
	データ操作ツール2	2					○									
	プレゼンテーションツール	2						○								

環境情報学科(23カリキュラム)

区分		2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								区講 分師	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備考
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
全学共通科目	共通応用科目	公務のための判断推理	2	○								兼	高田 晴美	32		
		公務のための数的推理	2		○							兼	高田 晴美	33		
		公務のための政治学	2		○							兼	小林 慶太郎	34		
		公務のための経済学	2				○									
		公務のための法学	2				○									
		公務のための人文科学	2				○									
		公務のための自然科学	2					○								
		公務のための現代文・資料解釈	2						○							
		公務のための英文理解	2						○							
		公務のための論文・面接	2							○						
		社会調査入門	2	○								兼	三田 泰雅	35		
		社会調査の技法	2		○							兼	三田 泰雅	36		
		統計学入門	2		○								田中 伊知郎	37		
		社会統計学	2				○									
		フィールドワーク論	2				○									
		データ解析の技法	2				○									
		社会調査実習1	2					○								
		社会調査実習2	2						○							
		スポーツ指導論	2	○								総	若山 裕晃	38		
		スポーツトレーニング論	2	○								総	若山 裕晃	39		
		アスリート育成論	2		○							総	若山 裕晃	40		
		スポーツ心理学	2		○							総	若山 裕晃	41		
		スポーツ生理学	2				○									
		スポーツ応用科学	2				○									
		スポーツメディカル論	2					○								
		スポーツ栄養学	2					○								
		地域スポーツ論	2						○							
		スポーツ政策論	2							○						
	特別科目	全学共通特別講義a	2		▲							総	倉田 英司	42	○	
		全学共通特別講義b	2	▲												
		全学共通特別講義c	2	▲												
		全学共通特別講義d	2	▲												
全学共通特別講義e		2	▲													
ボランティア活動a		2	▲								総	倉田 英司	43			
ボランティア活動b		2	▲								総	倉田 英司	44			
国際協力研修		2		▲							総	岩崎 祐子	45			
海外環境研修		2		▲												
他大学開放科目a		2	▲													
他大学開放科目b		2			▲											
他大学開放科目c		2			▲											
他大学開放科目d		2			▲											
他大学開放科目e		2			▲											

環境情報学科(23カリキュラム)

区分		2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								区 講 分 師	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
学部専門科目	学部基礎科目	環境情報学概論Ⅰ	2	○									前川 督雄	46		
		環境情報学概論Ⅱ	2		○								田中 伊知郎	47		
													前川 督雄	48		
													池田 幹男			
		入門演習a	2	○									大八木 麻希	49		
													樋口 晶子			
													前川 督雄			
													柳澤 翔士			
		入門演習b	2		○								池田 幹男	50		
													大八木 麻希			
	樋口 晶子															
	前川 督雄															
												柳澤 翔士				
	演習科目	基礎演習a	2			○										
		基礎演習b	2				○									
		専門演習a	2					○								
		専門演習b	2						○							
		卒業研究a	2							○						
		卒業研究b	2								○					
	専攻間共通科目	メディアリテラシー	2	○									前川 督雄	51		
		技術者研究者倫理	2						○							
		データサイエンスⅠ	2				○									
		データサイエンスⅡ	2			○										
		データサイエンスⅢ	2					○								
		環境データ処理	2					○								
		環境情報特別講義a	2													
		環境情報特別講義b	2													
		環境情報特別講義c	2			○										
		環境情報特別講義c	2			○										
環境科学専攻	必修	環境科学	2		○							廣住 豊一	52			
		生態学	2			○										
		環境保全学	2				○									
	自然環境	地球環境学	2	○								廣住 豊一	53			
		環境化学	2		○							牧田 直子	54			
		森林環境学	2		○							田中 伊知郎	55			
		野生動物学	2			○										
		土壌環境学	2			○										
		陸水環境学	2				○									
		河川環境学	2					○								
		環境生物学	2		○							非	古山 歩	56		
		環境微生物学	2			○										
		海洋環境学	2				○									
	海洋生物学	2						○								
	人と環境	環境エネルギー論	2						○							
		資源循環論	2						○							
		都市環境学	2			○										
		生活環境学	2		○								廣住 豊一	57		
		環境社会学	2		○							非	村田 静昭	58		
		地域社会と環境	2			○										
		地域連携環境講義	2	○									千葉 賢	59	○	
		農業環境学	2				○									
		食糧生産学	2				○									
		流通論	2						○							
		農業経営論	2							○						
		都市計画論	2						○							
		都市環境と法	2						○							
		環境とまちづくり	2						○							
ツーリズム論		2						○								
実習	自然調査法	2		○								大八木 麻希	60			
	伊勢湾海洋実習	2	○									千葉 賢	61			
	環境基礎実験	2	○									牧田 直子	62			
	環境実験・調査a	2		○								大八木 麻希	63			
	環境実験・調査b	2			○						廣住 豊一					
	環境実験・調査c	2				○										

環境情報学科(23カリキュラム)

区分		2023年度入学生 授業科目名	単 位 数	配当年次								区講 分師	担当教員	ペ ー ジ	実 務	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
学部専門科目	必修 専攻	情報科学	2		○								片山 清和	64		
		音と光の科学	2			○										
		地域社会とメディア情報	2				○									
	情報 技術	ソフトウェア概論	2		○								池田 幹男	65		
		ハードウェア概論	2	○									片山 清和	66		
		情報理論Ⅰ	2			○										
		情報理論Ⅱ	2				○									
		AI概論	2					○								
		ソフトウェア工学概論	2					○								
		次世代メディア情報	2					○								
		メディア概観	2	○									黒田 淳哉	67	○	
	メディア 表現	メディア情報と文化	2		○								前川 督雄	68		
		映像概論	2	○									柳瀬 元志	69	○	
		音響照明概論	2		○								足立 明信	70	○	
		メディア表現の科学	2				○						黒田 淳哉			
		先進メディア論	2						○							
		メディア情報産業論	2						○							
		プログラミング実習基礎	2		○								片山 清和	71		
		プログラミング実習応用1	2				○									
	実習・情 報技術	プログラミング実習応用2	2				○									
		データサイエンス実習	2						○							
		データベース実習	2						○							
		グラフィックツール1	2	○								非	西尾 秀樹	72	○	
		グラフィックツール2	2		○							非	西尾 秀樹	73	○	
												非	山本 努武			
		Webデザイン	2			○										
		コンピュータグラフィックス	2						○							
	実習・メ ディア表現	映像技術	2													
		ビデオツール	2			○										
		音響照明技術	2			○										
		電子音楽ツール	2				○									
先進メディア技術		2					○									
感性と創造		2		○							環	黒田 淳哉	74	○		
作品制作		2			○											
他学部開設科目a		2														
開設科目	他学部開設科目b	2														
	他学部開設科目c	2														
	他学部開設科目d	2														
	他学部開設科目e	2														
		他学部開設科目f	2													

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	100221
担当教員	三 田 泰 雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	大学生として身につけるべき教養を主に修得する						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作 っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社 会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45％，期末試験55％。 平常点は各回の授業の参加度とミニッツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニッツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふう to 動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

- ・授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
 - ・担当教員：授業科目担当者です。
 - ・科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
 - ・授業コード：時間割順を示すナンバーです。
 - ・科目ナンバリング：後掲の科目ナンバリングを参照のこと。
 - ・配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
 - ・開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
 - ・単位数：単位数を表記しています。
 - ・必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
 - ・授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（D P）と当該授業科目の関連が記載されています。
 - ・授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
 - ・到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
 - ・授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
 - ・テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
 - ・事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
 - ・成績 評価方法：定期試験 60 %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- 授業内の課題・提出方法、フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ・担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ			科目コード	181001	授業コード	425101
担当教員	岩崎 恭典			科目ナンバリング	GEFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 君たちが大学で学ぶべきこと 第2講 18歳成人に伴う社会的責任について 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第4講 交通安全・車の免許取得に際して考慮すべきこと(JAF) 第5講 先輩に学ぶ 本学卒業生のインタビュー動画をみる 第6講 先輩に学ぶ 本学ベトナムからの留学生のインタビュー動画をみる 第7講 先輩に学ぶ 本学ネパールからの留学生のインタビュー動画をみる 第8講 先輩に学ぶ 他大学の長期インターンシップ学生のインタビュー動画をみる 第9講 外国で働くということ(オイスカ) 第10講 本学の海外研修について 第11講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省津財務事務所) 第12講 人生の先輩に聴く① 四日市北ロータリークラブ会長 第13講 人生の先輩に聴く② 本学社会人OB 第14講 前学期のまとめ 建学の精神について 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る 定期試験						
テキスト・教材(参考文献含む)	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、前学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の一年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。なお、再履修のものは、希望すれば小生との面談のうえ、返却を求めることができる。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ			科目コード	181002	授業コード	425501
担当教員	岩崎 恭典、青木 陽子、浅井 雅			科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部 of 全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	1. 本学の建学の精神を理解する。 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 3. 各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第1講 ガイダンス 「人間たれ」Ⅰの振り返り、ⅠとⅡの違いについて 第2講 UD(ユニバーサルデザイン)について ① (NPO法人UDほっとねっと伊藤さん) 第3講 UD(ユニバーサルデザイン)について ② (NPO法人UDほっとねっと石山さん) 第4講 本学の建学の精神について 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シンギュラリティ、Society5.0 第9講 人口減少社会を生きる力 第10講 PBLとは何か-祭りや鉄道を素材として 第11講 環境問題と総合政策-ゴミ問題をテーマとして 第12講 新任教員は語る① 何をどう勉強してきたか 第13講 新任教員は語る② 何をどう勉強してきたか 第14講 新任教員は語る③ 何をどう勉強してきたか 第15講 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、後学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の二年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	基礎コンピュータ I			科目コード	181004	授業コード	424102
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	GEFC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならないことがあります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりできるようになるための実習も行います。						
到達目標	① ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ② Wordを用いて文章を作成できる ③ PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作れる						
授業計画	第1講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック 第2講 メールによるコミュニケーション 第3講 Word 起動と終了、文字の入力 第4講 文書の入力と編集と保存 第5講 表の挿入と編集 第6講 アイコン、3Dモデルの挿入 第7講 画像・テキストボックスの挿入 第8講 ワードアートとスクリーンショット 第9講 情報モラルと情報セキュリティ 第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権 第11講 ネット社会に潜む危険と対策 第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理 第13講 PowerPoint 起動と終了、プレゼンテーションの作成 第14講 PowerPoint オブジェクトの挿入とスライドショー 第15講 タイピングテスト						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows 11, Office 2021対応）FOM出版 2200円（税込） <参考文献>「30時間でマスターWord&Excel 2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	<事前学習> 第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配布資料を読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習> 課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	実習の提出物（70％）とタイピングテスト(30％)の合計で評価します。定期試験は行いません。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかりと行ってください。						

授業科目名	基礎コンピュータⅡ			科目コード	181005	授業コード	424502
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	GEFC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形でいきます。						
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ② Excelを用いて表やグラフを作成できる ③ Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④ PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる						
授業計画	第1講 ガイダンス、Word (1) 第2講 Word (2) 第3講 Word (3) 第4講 Word演習問題 (1) 第5講 Excel (1) 第6講 Excel (2) 第7講 Excel (3) 第8講 Excel (4) 第9講 Excel (5) 第10講 Excel (6) 第11講 Excel 演習問題 第12講 PowerPoint (1) 第13講 PowerPoint (2) 第14講 PowerPoint (3) 第15講 PowerPoint 演習問題						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows 11, Office 2021対応）FOM出版 2200円（税込） <参考文献>「30時間でマスターWord&Excel 2021」実教出版 1100円（税込）						
事前・事後学習	<事前学習> テキストを読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習> 課題を完成させる。（150分）						
成績評価方法	実習の提出物（70%）とタイピングテスト（30%）の合計で評価します。定期試験行いません。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。						

授業科目名	基礎英語 I			科目コード	181006	授業コード	425401
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GEFC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	高等学校までの英語学習とは違った、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、全く新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	181007	授業コード	425801
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GEFC1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通して、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上に英語学習を通して貢献することを目指しています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	世界の共通言語である英語の総合的な力（聴く、話す、読む、書く）を高めるため、大学から新たな英語学習を始める、という気持ちで受講して下さい。						

授業科目名	基礎日本語 I			科目コード	181008	授業コード	423103
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEFC9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	181009	授業コード	423503
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEFC9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス（クラス分け日本語テストも含む） 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習① 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』" 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N1向まで問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますの、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	政治学概論			科目コード	181201	授業コード	422201
担当教員	吉川 和挟			科目ナンバリング	GELA1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業では政治制度や政府の役割について扱い、政治関連科目受講のための基礎知識を獲得することを目的とします。 誰もが「政治」という言葉を知っており、当たり前のように使っています。それほど私たちの生活と政治は不可分に結びついたものとなっていますが、一方で政治を身近に感じるという人は残念ながらあまり多くないでしょう。 この講義では、可能な限り身近な例を参照しつつ、日ごろ目にする政治ニュースに少しでも関心を抱き、自分事として考えてもらうための手助けを行います。						
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる。						
授業計画	01. ガイダンス/政治学とは 02. 政治のとらえ方 03. 国家という枠組み 04. 政治体制 05. 選挙と投票 06. 政党と政党システム 07. 政権とアカウンタビリティ 08. 執政・立法・司法 09. 政策過程と官僚制・利益団体 10. 連邦制と地方制度 11. 安全保障と平和 12. 国際政治経済 13. 国際社会と集団・個人 14. シティズンシップ 15. デモクラシー 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳「政治学の第一歩〔新版〕」有斐閣（2020） ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望「ここから始める政治理論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	経済学概論			科目コード	181202	授業コード	422801
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	GELA1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的思考方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。						
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。						
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。						
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	421301
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 ジェンダーのはたらき 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニツツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうに動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	181204	授業コード	421201
担当教員	李 修二			科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	1. ガイダンス、社会福祉の理念 2. 社会福祉の歴史 イギリス(1) 3. 社会福祉の歴史 イギリス(2) 4. 社会福祉の歴史 イギリス(3)<映画教材視聴> 5. 社会福祉の歴史 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本 6. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1) 7. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2) 8. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1) 9. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2) 10. 資本主義経済の歴史的変化と福祉国家 11. これからの社会保障(1) 12. これからの社会保障(2) 13. 医療への新たな視点(1) 15. 医療への新たな視点(2) 15. 持続可能な福祉社会に向けて 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献： 武川正吾『福祉社会（新版）』2011年、有斐閣 広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済						
事前・事後学習	毎回の授業後、復習課題の小レポートを書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習、45分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイトなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習、45分以上）						
成績評価方法	毎授業ごとの小レポート課題で30%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で70%評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題の小レポートは、Moodleを通じて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の小レポートの評価基準はガイダンス時に説明します。また小レポートやその他の質問等には、Moodleを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。						
担当者から一言	社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。						

授業科目名	日本国憲法概論			科目コード	181205	授業コード	422202
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GELA1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	民法概論			科目コード	181206	授業コード	423801
担当教員	土志田 佳枝			科目ナンバリング	GELA1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。						
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。						
授業計画	予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。 1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/）。						
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。						
成績評価方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50％）と平常点（50％：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。						

授業科目名	哲学概論			科目コード	181301	授業コード	423401
担当教員	フェリペ フェハリー			科目ナンバリング	GELH1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。						
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。						
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 無知の知 第6講 洞窟の比喻 第7講 現実とは何か 第8講 ファルサファ 第9講 中世哲学 第10講 理性主義 第11講 近代哲学 第12講 超越とは何か 第13講 懐疑的解釈学 第14講 現代哲学 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。						

授業科目名	文学概論			科目コード	181302	授業コード	421401
担当教員	永井 博			科目ナンバリング	GELH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。						
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ各回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。						
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわらず「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。						

授業科目名	歴史学概論			科目コード	181303	授業コード	425301
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GELH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供したい。						
到達目標	1. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 2. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。 3. 歴史と文化・思想の繋がりを理解することができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 時代区分等歴史の基礎知識 3. 考古 4. 古代 (1) 5. 古代 (2) 6. 中世 (1) 7. 中世 (2) 8. 中世 (3) 9. 近世 (1) 10. 近世 (2) 11. 近世 (3) 12. 近世 (4) 13. 近代 (1) 14. 近代 (2) 15. まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	教育学概論			科目コード	181304	授業コード	421601
担当教員	長谷川 誠			科目ナンバリング	GELH1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。						
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。						
授業計画	第1講：教育とは何か 第2講：教育と社会 第3講：学歴社会の成立と変貌 第4講：日本の教育政策の動向-諸外国との比較から- 第5講：教育をめぐる格差問題 第6講：いじめ問題 第7講：不登校の課題と対応 第8講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第9講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。 参考文献：原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学』ミネルヴァ書房 2, 200円						
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性）						
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします						
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。						

授業科目名	心理学概論			科目コード	181306	授業コード	424601
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GELH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえ情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。						
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。						
授業計画	第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理 第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習) 第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用 第4講 視覚情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習) 第5講 視覚情報・形 両眼視 第6講 視覚情報・形 アフォーダンス 第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ポケの効果 第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習) 第9講 実験心理学からみた学習 第10講 個体学習と社会学習の違い 第11講 社会学習における課題 第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布) 第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして 第15講 レポート返却(コメント付き)・講評 定期試験 各自のコメントに関連した問題						
テキスト・教材(参考文献含む)	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	教育は一方の方向の情報発信でなく、双方の方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。						

授業科目名	化学概論			科目コード	181401	授業コード	421302
担当教員	牧田 直子			科目ナンバリング	GELN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。						
到達目標	「元素の周期表からの確な情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合 1 第9講 化学結合2、物質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。 関連科目（環境情報学部）は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に環境情報学部の学生は、「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	地学概論	科目コード	181402	授業コード	421101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。				
到達目標	地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 地震 第11講 火山 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 地下水 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （遅刻、早退は減点の対象になります） （2）定期試験 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義の最後に小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、積極的な姿勢を期待します。				

授業科目名	生物学概論			科目コード	181403	授業コード	424801
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GELN1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養う。人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー：代謝 第3講 光合成：エネルギーの生産 第4講 呼吸：エネルギーの活用 第5講 生体物質：反応できる窒素 第6講 タンパク質：安定した生体物質 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答：刺激の受容 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講 行動：統合された反応 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	数学概論			科目コード	181404	授業コード	422203
担当教員	金岩 稔			科目ナンバリング	GELN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	(1) 数学的な物の考え方ができるようになる。 (2) 基礎的な数学を理解する。						
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 10 極限 11 回転 12 微分 13 積分 14 微分方程式 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	出席（50％）最終課題（50％）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事務を通して返却						
担当者から一言	数学の考え方を理解すると、数学に対する苦手意識がやわらぐと思います。なるべく式を使わないでわかりやすい講義を目指します。						

授業科目名	情報科学概論			科目コード	181405	授業コード	424301
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GELN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	データサイエンス概論			科目コード	181406	授業コード	421602
担当教員	前川 督雄、片山 清和			科目ナンバリング	GELN1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に付けてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川） 第3講 社会で起きている変化② AI（前川） 第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川） 第5講 社会で活用されているデータ（片山） 第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川） 第7講 データ・AIの活用領域（片山） 第8講 データ・AIの利活用のための技術（片山） 第9講 データ・AI利活用の現場（片山） 第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（片山） 第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（片山） 第12講 データ・AI利活用における留意事項①（前川） 第13講 データ・AI利活用における留意事項②（前川） 第14講 データを守るうえでの留意事項（前川） 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						

授業科目名	キャリア基礎 a			科目コード	181501	授業コード	426101
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。						
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、数学1 第2講 数学2 第3講 数学3 第4講 数学4 第5講 数学5 第6講 数学6 第7講 数学7 第8講 読解1 第9講 読解2 第10講 読解3 第11講 数学8 第12講 数学9 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストを配布します。						
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。						
成績評価方法	期末試験 100%						
授業内の課題・提出方法	授業内で課題を出された場合は、課題の提出は、Moodleで行う場合もある。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説などは、授業動画の中もしくはMoodleにて示す。						
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。						

授業科目名	ビジネス英語 a		科目コード	181701	授業コード	423201
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GECE1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることを目적으로して、練習問題に挑戦します。グループワークやペアワークを多く行います。					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講 Unit 2/ The Internet 第3講 Unit 3/ Animals 第4講 Unit 4/ Friends 第5講 Unit 5/ Helping Others 第6講 Unit 6/ Traveling 第7講 Unit 7/ Collections and Gifts 第8講 Unit 8/ Careers 第9講 Unit 9/ European Cultures 第10講 Unit 10/ Gifted Children 第11講 Unit 11/ Restaurants 第12講 Unit 12/ Transportation 第13講 Unit 13/ Homes 第14講 Unit 14/ Space 第15講 Unit 15/ Personality 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。					
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ 定期試験 50％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。					

授業科目名	ビジネス英語 b		科目コード	181702	授業コード	423601
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GECE1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	自分の意見を持ち、それをことばで表現することが、ビジネスの場に立つスタート段階です。「ビジネス英語a」での学習をもとにして、引き続き、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な英語力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を解いてみます。グループワークやペアワークを多く行います					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講 Unit 2/ Music 第3講 Unit 3/ Hobbies 第4講 Unit 4/ Culture 第5講 Unit 5/ Interesting Places 第6講 Unit 6/ Animals 第7講 Unit 7/ Art and Design 第8講 Unit 8/ Weather 第9講 Unit 9/ Traveling 第10講 Unit 10/ Entertainment 第11講 Unit 11/ Friends 第12講 Unit 12/ Africa 第13講 Unit 13/ Self-Improvement 第14講 Unit 14/ Sports 第15講 Unit 15/ Transportation 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。					
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。					
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% 定期試験 50% ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。					

授業科目名	ITリテラシー			科目コード	181801	授業コード	422402
担当教員	柳澤 翔士			科目ナンバリング	GEC11001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	Webプログラミング 1			科目コード	181802	授業コード	424604
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	GEC11002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。						
成績評価方法	<評価> 「提出物」（55%）、「作品」（45%）						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	文書表現ツール1			科目コード	181804	授業コード	423802
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEC11003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。						
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 文書の作成 第3講 文書の管理 第4講 文字・段落の書式設定 第5講 セクションの書式設定 第6講 表やリストの作成と変更 第7講 引用文献 第8講 図表の管理 第9講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題 1 第13講 MOS word 模擬試験問題 2 第14講 MOS word 模擬試験問題 3 第15講 MOS word 模擬試験問題 4						
テキスト・教材（参考文献含む）	MOS攻略問題集 Microsoft Word 日経BP社 MOS, Office のバージョンによって変わります。						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	181901	授業コード	423402
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECP1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクスア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	181902	授業コード	423803
担当教員	高田 晴美			科目ナンバリング	GECP1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス、整数の性質 第2講 剰余系の問題、n進法 第3講 比と割合 第4講 方程式と不等式① 第5講 方程式と不等式② 第6講 濃度 第7講 仕事算、ニュートン算 第8講 年齢算、平均算など 第9講 集合 第10講 速さ① 第11講 速さ② 第12講 速さ③ 第13講 場合の数 第14講 確率 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクスピア出版（2021年）1, 650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	181903	授業コード	423504
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	GECP1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・ 講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・ 定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	毎回小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	182001	授業コード	423202
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	現実の社会をとらえる方法の一つに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプルの発展 8 公的統計の意義と活用 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「A」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	182002	授業コード	423602
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理 必要に応じてグループワークを行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュースに目を通す（1日10分） 授業のノートを見返す（1日10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55%。 平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートの質問などは翌週以降の授業でコメントします						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラム「B」科目です。 学生諸君の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	統計学入門			科目コード	182003	授業コード	424701
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	GECR1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に付けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張：質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可 第2講から第14講までパソコン・スマホなどを使つての実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホでも)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。						

授業科目名	スポーツ指導論			科目コード	182101	授業コード	421303
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。						
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツ指導者とは 第3講 指導者の心構え・視点 第4講 競技者育成プログラムの理念 第5講 スポーツと健康 第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講 救急処置 第8講 指導計画の立て方 第9講 スポーツ活動と安全管理 第10講 中高年者とスポーツ 第11講 女性とスポーツ 第12講 障害者とスポーツ 第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講 ミーティングの方法 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	スポーツトレーニング論			科目コード	182102	授業コード	421102
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。						
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 体力とは 第3講 体力とは 第4講 トレーニングの進め方 第5講 トレーニングの進め方 第6講 トレーニングの種類 第7講 トレーニングの種類 第8講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講 発育発達期に多いケガや病気 第12講 発育発達期に多いケガや病気 第13講 発育発達期のプログラム 第14講 発育発達期のプログラム 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。						

授業科目名	アスリート育成論			科目コード	182103	授業コード	421801
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。						
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講 競技者育成と評価競技 第4講 競技者育成システムにおける指導計画 第5講 競技力向上のためにチームマネジメント 第6講 スポーツとIT 第7講 アスリートの健康管理 第8講 アスリートの内科的障害と対策 第9講 アスリートの外傷・傷害と対策 第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講 コンディショニングの手法 第12講 スポーツによる精神障害と対策 第13講 特殊環境下での対応 第14講 アンチドーピング 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	スポーツ心理学			科目コード	182104	授業コード	423603
担当教員	若山 裕晃			科目ナンバリング	GECS1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲・学習・発達・性格特性・集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。						
到達目標	スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講 スポーツと心 第3講 スポーツにおける動機づけ 第4講 技能の練習と指導 第5講 プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講 チームの指導と心理的問題 第7講 コーチングの評価 第8講 メンタルマネジメントとは 第9講 リラクセーション 第10講 イメージトレーニング・集中カトレーニング 第11講 心理的コンディショニング 第12講 プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講 指導者のメンタルマネジメント 第14講 スポーツ環境における精神障害と対策 第15講 総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃・渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。						
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。						
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回＝60点）。						
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。						

授業科目名	全学共通特別講義 a			科目コード	182201	授業コード	426503
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GESG1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬 「ガイダンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですが、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	ボランティア活動 a			科目コード	182206	授業コード	426103
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GES1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動a単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	ボランティア活動 b			科目コード	182207	授業コード	426104
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GESC1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動b単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	182208	授業コード	426502
担当教員	岩崎 祐子			科目ナンバリング	GESCI008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献含む）	外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
担当者から一言	2024年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅰ			科目コード	381001	授業コード	423301
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	EIFC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第1講 ガイダンス／学部概要（鬼頭、前川はじめ全教員） 第2講 里山と竹林保全（牧田、外部講師） 第3講 竹山保全実習（牧田、外部講師） 第4講 アプリ開発／北勢地域の野生動物（片山、野呂） 第5講 収録体験（柳瀬、足立、黒田） 第6講 地域農業と環境／光と表現（廣住、黒田） 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介（演習担当教員） 第8講 海洋のプラスチック問題／（大八木、柳澤） 第9講 メディアとクリエイティビティ／プランクトンの世界（柳瀬、牧田） 第10講 環境政策／録音シミュレーション（鬼頭、足立） 第11講 アナログからデジタルへ／伊勢湾の水質問題（池田、千葉） 第12講 外来生物問題／AI深層学習（野呂、片山） 第13講 メディアと情報の融合／水環境（前川、大八木） 第14講 メディアライブ（柳瀬、足立、黒田） 第15講 まとめ／専攻選択（全教員） （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川（6号館6418）です。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ			科目コード	381002	授業コード	423701
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	EIFC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	基礎演習への導入として、環境科学選考についての知見を深める。						
到達目標	自然科学の研究内容の基礎を知り、各研究室の研究手法について理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス：詳しいスケジュールの説明（田中）以下()内が担当教員 第2講 自然科学の研究方法(IMRD)と再現性（田中） 第3講 自然科学の発表方法(統計検定)と客観性（田中） 第4講 統計検定の実習（田中） 第5講 伊勢湾の水質と海洋ゴミ（千葉） 第6講 大学周辺の里山環境（千葉） 第7講 伊勢湾とマイクロプラスチック（大八木） 第8講 四日市周辺の陸水環境（大八木） 第9講 地域の生物多様性モニタリング（野呂） 第10講 北勢地域の野生動物（野呂） 第11講 地域資源を農業に活かす取り組み1（廣住） 第12講 地域資源を農業に活かす取り組み2（廣住） 第13講 湖沼と水田のプランクトン1（牧田） 第14講 湖沼と水田のプランクトン2（牧田） 第15講 まとめと基礎演習の進め方（田中） 第5講から第14講まで担当教員と内容を、ガイダンスで案内します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（180分）。						
成績評価方法	授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、提出する（90%）。これを各回の担当教員が採点し（6点／回）、フィードバックを行う。授業への取り組み姿勢などを考慮して採点（10%）する。						
授業内の課題・提出方法	授業内容の理解度を測る課題を授業末に課す。すぐに提出できない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送る。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は採点・評価だけでなく、理解できていないところを指摘する。ノートを見直して、再学習、再提出する。						
担当者から一言	自然環境分野の教員や学生たちが行った具体的な環境情報学を学ぶことができる授業です。必ず参加してください。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ			科目コード	381002	授業コード	423702
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	EIFC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	配属されたメディア情報専攻での学生生活を確立していくための導入を行います。 専攻の教員全員が分担して講義・実習を行って、専攻の概要を伝え、体験してもらいます。また、2年次以降の学修の核となる演習科目（いくつかの研究室・ゼミに分かれての少人数指導になります）への導入を行います。						
到達目標	メディア情報専攻の概要を把握します。また、自分自身が進む方向性・興味の対象を見定めて、大学生活の核となる演習科目（研究室・セミナー）の配属希望を提出し、配属内定を受けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス／メディア情報専攻概要（前川） 第2講 WebコンピューティングからAIに至る情報技術（片山、柳澤） 以下第3講～第6講、第7講～第10講は、2グループに分かれて並行・交代して実施する。 第3講 パソコン分解組立て実習①（池田、片山、柳澤） 第4講 パソコン分解組立て実習②（池田、片山、柳澤） 第5講 パソコン分解組立て実習③（池田、片山、柳澤） 第6講 パソコン分解組立て実習④（池田、片山、柳澤） 第7講 映像を柱とする作品制作体験（柳瀬） 第8講 音響を柱とするライブ演出体験（足立） 第9講 照明を柱とするライブ演出体験（黒田） 第10講 メディア表現・情報技術の境界領域（前川） 第11講 メディア情報の背景となる文化（樋口、青木） 第12講 寺院見学（北島名誉教授） 第13講 特別講義（豊島名誉教授） 第14講 基礎演習にむけて（足立、片山、黒田、前川、柳澤、柳瀬） 第15講 4年生の卒業研究・卒業制作発表会見学 （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	メディア情報専攻の専門的な学修の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。 基礎演習（2年次）配属にむけて、期間中（12月頃）の授業時間外に個別面談を行います。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートや実習課題を課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめ教員は、前川（6号館6418）です。						

授業科目名	入門演習 a	科目コード	381003	授業コード	422105
担当教員	前川 督雄	科目ナンバリング	EIFC2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	大学に慣れて、大学生活を順調に送ることができるよう担当教員がサポートします。学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受ける上で必要なスキル 2. 人間関係の基礎を作るスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること 4. 自分が所属する学部のことを知ること				
到達目標	四日市大学環境情報学部の学生としての自覚を得ること。 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する 第3講 スケジュール管理を身に着ける 第4講 授業の受け方、ノートの取り方① 第5講 授業の受け方、ノートの取り方② 第6講 （クラス独自課題）第7講 図書館（情報センター）の使い方 第8講 リーディング基本① 第9講 リーディング基本② 第10講 リーディング応用① 第11講 リーディング応用② 第12講 レポート作成基本① 第13講 レポート作成基本②／研究倫理 第14講 プレゼンテーション基本① 第15講 プレゼンテーション基本② （必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）				
テキスト・教材（参考文献含む）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。				
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） ノートと使用したプリントなどを読む。（30分） 宿題となった課題を解く。（60分）				
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。				
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。				
担当者から一言	大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。				

授業科目名	入門演習 b		科目コード	381004	授業コード	422505
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	前期「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル 3. 調べ、整理した情報をレポートにまとめるスキル 4. 資料を発表し、議論するスキル					
到達目標	大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 テーマを決める 第3講 調べる① 第4講 調べる② 第5講 読む① 第6講 読む② 第7講 まとめる① 第8講 まとめる② 第9講 まとめる③ 第10講 発表する① 第11講 発表する② 第12講 話し合う① 第13講 話し合う② 第14講 話し合う③ 第15講 まとめ／基礎演習について （必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）					
テキスト・教材（参考文献含む）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。					
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） 宿題となった課題を解く。（90分）					
成績評価方法	定期試験を行ないません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。					
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。					
担当者から一言	「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。					

授業科目名	メディアリテラシー			科目コード	381201	授業コード	421304
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	EIMC4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革が続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前と思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。						
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。						
授業計画	第1講 ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは 第2講 デジタルネイティブ 第3講 Society5.0／DX～フィンテック 第4講 国家・ネット起業が握る個人情報 第5講 メタバース／XR 第6講 メディアエコロジー 第7講 スマホ依存 第8講 特別講義（外部講師等） 第9講 AIとの付き合い方 第10講 レガシーメディアとの付き合い方 第11講 SNSでのふるまい 第12講 インターネットとマスメディア 第13講 音・光・身体 第14講 コミュニケーションの実質 第15講 まとめ （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください（90分）。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください（90分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	特になし。						

授業科目名	環境科学			科目コード	381301	授業コード	421702
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	EIER2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	環境科学専攻で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにするため、環境問題やSDGsについて全般的な内容を幅広く学ぶ。環境問題に対する基本的な考え方を身につけ、自然環境分野で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにする。						
到達目標	現在の環境問題に関する概略を知り、その解決策について考えることができる。自分の考えをまとめ、正確に伝えることができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、環境問題の歴史と環境科学 第2講 地球環境に関する基礎知識 第3講 世界的な人口増加と経済活動の拡大による環境負荷 第4講 地球温暖化対策と低炭素社会 第5講 エネルギーと環境のかかわり 第6講 生物多様性と自然共生社会 第7講 オゾンホールとオゾン層の保護 第8講 水資源の枯渇と汚染 第9講 海洋汚染と海洋環境保全 第10講 酸性雨と国際的な大気汚染問題 第11講 急速に進行する森林破壊 第12講 土壌劣化と砂漠化 第13講 廃棄物の処理と循環型社会 第14講 生活環境と地域環境問題 第15講 持続可能な社会に向けた取り組み 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。授業内容の理解を助けるため、各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。自習用教材には、環境社会検定試験(eco検定)、環境学・環境科学・地球環境に関する書籍などを推奨する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、書籍・テレビ・新聞・インターネットなどの関連する記事・ニュースで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回のミニレポートの解説を行う。						
担当者から一言	ある一面からの視点では地球環境問題の全体像は把握できません。問題解決にはさまざまな立場から捉えることが重要です。各回の授業で課すミニレポートではその点に注意して書いてみてください。						

授業科目名	地球環境学			科目コード	381401	授業コード	422401
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	EIEN4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	地球温暖化・気候変動・自然災害・海洋汚染・大気汚染などを含めた地球規模の環境問題について、地球科学的な観点から学ぶ。						
到達目標	現在の生じている地球規模の環境問題について、地球科学的な側面からその発生メカニズムを理解し、対策を考えることができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、地球環境とその成り立ち 第2講 地球環境の基礎知識① 大気の構造と流れ 第3講 地球環境の基礎知識② 海水と海洋の動き 第4講 地球環境の基礎知識③ 地球規模の水循環 第5講 地球環境の基礎知識④ 生物と生態系 第6講 地球温暖化と気候変動① 気候変動と異常気象 第7講 地球温暖化と気候変動② 地球温暖化の原因 第8講 地球温暖化と気候変動③ 地球温暖化の対策 第9講 大気に関する環境問題① オゾン層とオゾンホール 第10講 大気に関する環境問題② 大気環境と大気汚染 第11講 大気に関する環境問題③ 酸性雨とその被害 第12講 水と海洋に関する環境問題① 海洋の汚染 第13講 水と海洋に関する環境問題② 水資源の枯渇と汚染 第14講 自然環境に関する環境問題① 森林破壊と砂漠化 第15講 自然環境に関する環境問題② 地球環境と自然災害 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	この授業では地球規模の環境問題について扱います。「地球をまるごとひとつ」というと、とてつもなく大きく感じますが、この機会に視野を世界まで大きく広げてみてください。						

授業科目名	環境化学	科目コード	381402	授業コード	424802
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	EIEN4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。 関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。				
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の基礎（復習） 第2講 地球の空気 第3講 大気成分と化学変化 第4講 大気汚染と酸性雨 第5講 オゾン 第6講 光（電磁波） 第7講 成層圏オゾンの生成 第8講 オゾン層の破壊と対策 第9講 温室効果と分子の形 第10講 分子の振動と温室効果 第11講 温室効果ガスと地球への影響 第12講 燃焼とエネルギー 第13講 化学反応のエネルギー 第14講 燃料の化学 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学 上巻 地球感動編」NTS社（2015）、3850円（税込み）				
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。				
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%				
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。				
担当者から一言	ノートを用意して下さい（ルーズリーフは不可）。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。				

授業科目名	森林環境学			科目コード	381403	授業コード	422601
担当教員	田中 伊知郎			科目ナンバリング	EIEN4003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。						
到達目標	日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり(森林からどのように財を生み出すかを含む)を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林： 大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 森林生態系の基礎：植物の光合成 第3講 植物同士の競争と遷移 第4講 西日本の極相：照葉樹林(mast fruitingの確認のフィールドワーク) 第5講 東日本の極相：夏緑樹林(落葉広葉樹林) 第6講 二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ 第7講 貧栄養土壌と松林(二次林のなれの果て) 第8講 人工林：技術発展による木材利用の変化(イケアなどの集成材) 第9講 スギ植林の問題点(挿し木杉植林について意見を述べる実習) 第10講 森林(ブナ極相林)における動物相 第11講 獣害(人を食い殺すツキノワグマやオオカミ) 第12講 コアエリア計画(積雪地のブナ林で) 第13講 ニホンジカ管理計画(非積雪地のブナ林で) 第14講 ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展 第15講 持続可能な森林に向けて：天然更新 定期試験 持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	環境生物学			科目コード	381408	授業コード	425701
担当教員	古山 歩			科目ナンバリング	EIEN4004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境（生態系）によって支えられている。近年、各地で頻発する環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす環境問題について、概要と講じられている対策を解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。						
到達目標	（１）生態系や生物多様性の重要性を理解する。 （２）現在地球上で起きている様々な環境問題や生物多様性の危機について知る。 （３）環境問題についての対策を知るとともに、今後の生態系・生物多様性保護について自分の考えをもち、述べられるようになる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 生態系と生物多様性 3. 生態系サービス 4. 様々な環境問題 5. 地球温暖化1 概要とメカニズム 6. 地球温暖化2 環境・生態系への影響 7. 地球温暖化3 対策とその課題 8. 海洋汚染1 公害・富栄養化 9. 海洋汚染2 海洋プラスチック 10. 都市開発 11. 外来生物1 概要と生態系への影響 12. 外来生物2 対策・駆除とその課題 13. 生物の乱獲・混獲 14. 人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト 15. 生態系・生物多様性の保護・保全活動 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書：なし、適宜資料を配布する						
事前・事後学習	予習：インターネットなどで環境問題について調べてください（30分）。 復習：講義中の資料の見直しをするとともに、講義で紹介した環境問題について個人レベルで行える対策を調べたり、考えてみてください（60分）						
成績評価方法	講義中のミニテスト（20%）、レポート課題（30%）、定期試験（50%）、必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	適宜指示する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中のミニテスト、レポート課題、必要に応じてフィードバックします。						
担当者から一言	現在様々な環境問題が発生しており、そのすべてを講義の中で紹介することは時間的にできませんので、予習の時間を利用して、ぜひご自身でも環境問題について自主的に調べ、積極的に受講してもらえたらと思います。						

授業科目名	生活環境学			科目コード	381504	授業コード	424605
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	EIEP4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康や暮らしにどのような影響を与えるかを学ぶ。						
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。						
授業計画	授業計画 第1講 ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2講 人の健康と病気① 恒常性と病気 第3講 人の健康と病気② 有害物質の影響と蓄積 第4講 住環境・労働環境と健康① 大気や空気と健康 第5講 住環境・労働環境と健康② 人の生活や労働に適した温熱条件 第6講 水と生活のかかわり① 水と健康 第7講 水と生活のかかわり② 安全な水を供給するしくみ 第8講 食の安全性と健康① 食品の腐敗・変質と食中毒 第9講 食の安全性と健康② 有害物質による食品の汚染 第10講 污水と廃棄物の処理① 下水道と污水处理 第11講 污水と廃棄物の処理② 廃棄物と適正な廃棄物処理 第12講 生活に関わる地域環境問題① 大気汚染 第13講 生活に関わる地域環境問題② 水質汚濁 第14講 生活に関わる地域環境問題③ 土壌汚染と地盤沈下 第15講 生活に関わる地域環境問題④ 騒音・振動・悪臭 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	近な話題も交えながら生活環境と健康の関係についてお話ししたいと思います。これをきっかけに自分たちの生活についても見直してみてください。						

授業科目名	環境社会学			科目コード	381505	授業コード	425601
担当教員	村田 静昭			科目ナンバリング	EIEP4003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	人類は、優れた科学技術を生み出し大量の資源とエネルギーを使うことで、今ある安全・快適・便利な生活を享受してきました。しかしこのような光に照らされた繁栄に対する闇の側面として、自らが地球に働きかけた結果として生じた環境破壊が未来に深刻な影を落としています。授業では現在も継続・複雑化している環境破壊について学び、被害の軽減と新たな発生を防ぎ繁栄を持続・拡大させていくための知識を学びます。						
到達目標	公害を始めとする環境破壊の歴史（原因・広がり・加害者／被害者などの変遷）を知る。環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。 現在進行中で今後も拡大し得る環境破壊について回復と抑制を考察する。 より良い生活の獲得といった視点から環境破壊と開発とのバランスを考察する。 新たな環境破壊の発生について考え、未然抑止に必要な知識やプロセスを考察する。						
授業計画	第1講 ガイダンス （快適な環境とはどのようなものか） 第2講 環境破壊の歴史1 公害の発生源・被害とその変遷 第3講 環境破壊の歴史2 公害の背景にある時代的・社会的背景とその変遷 第4講 環境破壊の歴史3 ローカルからグローバルへと被害の拡大と変遷 第5講 環境破壊の歴史4 時間と世代を超えた被害の拡大 第6講 人類生存の脅威1 淡水の確保 第7講 人類生存の脅威2 疾病との戦いと薬 第8講 人類生存の脅威3 食料と農業 第9講 人類生存の脅威4 気候変動 第10講 便利で安全な生活を支える新材料1 有機塩素化合物 第11講 便利で安全な生活を支える新材料2 合成樹脂・合成繊維 第12講 科学技術の光と闇 第13講 未来への責任1 地球温暖化との戦い 第14講 未来への責任2 使う責任／使わない責任 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ＝シュマルケル著、蔵持不三也訳 原書房 2022年						
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。						
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出 50%・・・授業中に解説します 定期試験 50%・・・終了後講評します						
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。						
担当者から一言	四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化している環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。関連してSDGsやCSRについても言及します。授業では高等学校における化学・物理・生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問してください。						

授業科目名	地域連携環境講義			科目コード	381507	授業コード	425202
担当教員	千葉 賢			科目ナンバリング	EIEP4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	（各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。） 第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉 第2講 四日市市の廃棄物問題、（外部講師） 第3講 三重県の廃棄物問題、（外部講師） 第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉 第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、（外部講師） 第6講 SDGsとESD、（外部講師） 第7講 SDGsと食品ロス、（外部講師） 第8講 三重県の地球温暖化対策、（外部講師） 第9講 四日市市周辺の自然環境、（外部講師） 第10講 企業と環境対策（外部講師） 第11講 三重県の林業と今後、（外部講師） 第12講 四日市における地域農業の展開、（外部講師） 第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、（外部講師） 第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、（外部講師） 第15講 伊勢湾の水質環境、千葉						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性（自分の生活とどのように関わっているか）を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回＝90点（優秀レポートには加点）して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	上記の通り						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	上記の通り						
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様には感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	自然調査法			科目コード	381601	授業コード	423804
担当教員	大八木 麻希			科目ナンバリング	E1ET6003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。						
到達目標	本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス、生物季節観測 第2講 森林① 植生調査 第3講 森林② 森林管理 第4講 森林③ 竹林問題 第5講 森林④ シカ害 第6講 森林⑤ 土壌生物調査 第7講 淡水圏① 湖沼の水生植物 第8講 淡水圏② 湖沼の動植物プランクトン 第9講 淡水圏③ 水生昆虫分類 第10講 淡水圏④ 生物学的水質判定法 第11講 海洋① 海洋生物調査 第12講 海洋② 音響機器 第13講 海洋③ 魚類形態と観察 第14講 海洋④ 干潟調査 第15講 海洋⑤ 化学的特性 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし 参考文献 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版（2015）2000円 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（2017）2600円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート30%、試験70%						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。						
担当者から一言	重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。						

授業科目名	伊勢湾海洋実習			科目コード	381602	授業コード	426102
担当教員	千葉 賢			科目ナンバリング	EIET6001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	三重大大学の勢水丸を借りて、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにします。船内で規律ある団体生活（ラジオ体操、船内清掃、配膳皿洗い等）を体験し、班分けで活動することで、社会人基礎力も養成する。						
到達目標	伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第2講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第3講 実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習1日目） 第4講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習1日目） 第5講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第6講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第7講 観測データ分析（船内実習1日目） 第8講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習2日目） 第9講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第10講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第11講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第12講 海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習3日目） 第13講 海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習3日目） 第14講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業） 第15講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。資料を配布する。						
事前・事後学習	事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習しないと困ることになる。						
成績評価方法	実習への取り組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。実習なのでフィードバックは現場で行う。						
授業内の課題・提出方法	事後授業で課題を提出させる。事前授業では予習を求める。それ以外は無し。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	上記の通り						
担当者から一言	伊勢湾の水産資源が減少し、コウナゴは6年連続で禁漁になりました。伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。「海洋環境学」をあわせて履修することを強く勧めます。						

授業科目名	環境基礎実験			科目コード	381603	授業コード	424302
担当教員	牧田 直子			科目ナンバリング	EIET6002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	基本的な実験器具の使用法を習得し、簡単な化学実験やフィールドワーク、顕微鏡観察等の生物学実習を体験することで実験操作に慣れることを目標とする。また、実験結果の記録の取り方や、データのまとめ方等も学習する。 授業を通して、実験室の使い方のルールを理解し、共同で実習を行う上で大切なコミュニケーション能力や協調性や環境に対する意識が向上することをねらいとする。 実験系科目の基礎となる科目なので、すべての実験系科目を履修する前に、また、実験系の演習科目（セミナー）を希望する学生は、ぜひ履修して欲しい。						
到達目標	(1) 実験室の使い方のルールを理解する (2) 実験器具を適切に取り扱える（使い方、洗いや、片付け方） (3) 実験結果を正しく記録する習慣を身に付ける						
授業計画	第1講 ガイダンスと実験室の使い方 第2講 ガラス器具の洗いやとフィールドワーク準備 第3講 タンポポ採集と顕微鏡の使い方 第4講 光学顕微鏡と電子顕微鏡での観察 第5講 質量と体積の量り方 第6講 測定結果の取り扱いと密度 第7講 溶液の作り方と濃度 第8講 ビベットの使い方と定性分析 第9講 廃油からセッケンを作る 第10講 溶液の希釈とマイクロピペットの使い方 第11講 分光光度計の使い方 第12講 定量分析 第13講 酸化還元滴定 第14講 COD測定 第15講 実験操作の復習、まとめ 定期試験 グループで協力して実験実習を進めるアクティブラーニング科目						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書：自作の実習プリントを配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。 実習プリントは①実験テキスト、②実験ノート、③実習の記録の3種類を用意している。						
事前・事後学習	(1) 予習として実験テキストをよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく（60分）。 (2) 実験結果を実験ノート（プリント）にまとめ、計算しておく（60分）。完成した実験ノートは提出する。 (3) 実習の記録に、実習で学んだことや要点を記入し、授業の復習をする（60分）。						
成績評価方法	実習：30%、実験ノート：15%、実習の記録：15%、定期試験：40% 「実習」は各回の実験結果を実験ノート（プリント）のデータ欄で確認し、評価する。 「実験ノート」は実習内容（結果）の記録、「実習の記録」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込み課題、予習プリント（1回）は授業開始時に確認する。 (2) 実験ノート（プリント）：実験結果を記入して、実習終了の報告時（授業時間内）に提出する。また、授業終了後にデータ整理を行い、次回以降の授業で提出する。 (3) 実習の記録：実習終了後に記入し、授業内容の振り返りを行う。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込みは授業中に答え合わせをする。予習プリントは採点し、解答例を添えて返却する。 (2) 実験ノート（プリント）：実習終了の報告時は、実験結果の部分をその場で確認し、不備があれば指摘して再提出させる。データ整理が必要なものは、実習点をつけた後、授業時間内に返却する。データ整理が完了しているものは、添削して次回以降の授業で返却する。 (3) 実習の記録：毎回、授業時間内にコメントを記入して返却する。						
担当者から一言	実習では危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。						

授業科目名	環境実験・調査a			科目コード	381604	授業コード	424702
担当教員	廣住 豊一、大八木 麻希			科目ナンバリング	E1ET6004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	この授業では、河川・湖沼・海洋などの陸域・海域に広がる水圏環境、森林・農地・都市などを支える基盤となる地圏環境に関する基礎的な調査・測定の方法を学ぶ。						
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方（廣住） 第2講 水圏環境① 物理指標 水温・pH（大八木） 第3講 水圏環境② 物理指標 浮遊懸濁物質（大八木） 第4講 水圏環境③ 生物指標 BOD（大八木） 第5講 水圏環境④ 化学指標 窒素（大八木） 第6講 水圏環境⑤ 化学指標 リン（大八木） 第7講 水圏環境⑥ 化学指標 COD（大八木） 第8講 水圏環境⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較（大八木） 第9回 地圏環境① 野外での土壌調査（廣住） 第10回 地圏環境② 土壌のpHとEC（廣住） 第11回 地圏環境③ 三相分布（廣住） 第12回 地圏環境④ 有機物量（廣住） 第13回 地圏環境⑤ 窒素（廣住） 第14回 地圏環境⑥ リン（廣住） 第15回 地圏環境⑦ カリウム（廣住） 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境基礎実験」を履修することが望ましい。						
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	情報科学			科目コード	381701	授業コード	421703
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	EIMR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	現代において、情報の様々な処理のほとんどすべてはコンピュータで行われています。そのため効率的に情報処理を行うためには、情報の適切な表現方法や、コンピュータシステムの構成や実行の仕組みを理解する必要があります。また、近年ではネットワークで接続された複数のコンピュータを使って処理が行われているため、コンピュータネットワークの理解だけでなく、情報のセキュリティを確保するために情報セキュリティも理解していることが重要です。 この講義では、コンピュータを用いて情報を処理するのに必要な知識を身につけることを目的とします						
到達目標	①ハードウェアとソフトウェアの関係を説明できる ②コンピュータ内における情報の表現方法を説明できる ③アルゴリズムとプログラミングの関係を説明できる ④ネットワークの基本的な仕組みを説明できる						
授業計画	第1講 ガイダンス、情報とは 第2講 情報処理とコンピュータ（1） 第3講 情報処理とコンピュータ（2） 第4講 情報処理とコンピュータ（3） 第5講 コンピュータシステムの構成（1） 第6講 コンピュータシステムの構成（2） 第7講 コンピュータシステムの構成（3） 第8講 アルゴリズムとプログラミング（1） 第9講 アルゴリズムとプログラミング（2） 第10講 アルゴリズムとプログラミング（3） 第11講 アルゴリズムとプログラミング（4） 第12講 コンピュータネットワーク（1） 第13講 コンピュータネットワーク（2） 第14講 情報セキュリティ（1） 第15講 情報セキュリティ（2） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 野本弘平 「情報科学入門」 朝倉書店 小館香椎子、岡部洋一 「教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版」 丸善出版						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（30分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（150分）。 「情報科学概論」を履修していることが望ましい。また、あわせて「ソフトウェア概論」「ハードウェア概論」を履修することが望ましい。 本講義の内容をふまえ、情報処理について発展した内容を「情報理論Ⅰ」で学習します。また、コンピュータでの処理について「プログラミング実習基礎」で実習を行います。						
成績評価方法	<評価> 小レポート30%、小テスト30%、定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で小レポートをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小レポートはMoodleを介して適宜コメントをします。						
担当者から一言	コンピュータでの処理はとてもシンプルです。基本を理解すると非常に効率的に処理を行うことができるようになりますので、復習をしっかりと理解してください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	ソフトウェア概論			科目コード	381801	授業コード	424703
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	EIMI4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	コンピュータソフトウェアの役割について学びます。ソフトウェアについて理解するにはその動作原理であるアルゴリズムを理解する必要があります。実際にソフトウェア作成するためにはプログラミング言語について理解する必要があります。また、ソフトウェアの基盤を担っている基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）についても理解していることが望ましいです。この授業ではアルゴリズム、基本ソフトウェアの基礎について理解することを目指します。						
到達目標	ソフトウェアの動作原理を理解する。基本ソフトウェアであるOSの基本について理解する。ITパスポートのテクノロジー分野のソフトウェアに関する項目を理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ソフトウェアは何ができるか 第3講 応用ソフトウェアと基本ソフトウェアとデバイスドライバ 第4講 応用ソフトウェアの実行 第5講 プログラミング言語 第6講 コンパイラとインタプリタ 第7講 アルゴリズム 第8講 アルゴリズムとフローチャート（1） 第9講 アルゴリズムとフローチャート（2） 第10講 アルゴリズムとフローチャート（3） 第11講 基本ソフトウェアとは 第12講 基本ソフトウェアの働き（ファイルシステム） 第13講 基本ソフトウェアの働き（マルチタスク） 第14講 デバイスドライバ 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。						
担当者から一言	「情報科学概論」をあわせて履修することを勧めます。						

授業科目名	ハードウェア概論			科目コード	381802	授業コード	421402
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	EIMI4002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	コンピュータシステムはハードウェアとソフトウェアから成り立っています。この講義ではコンピュータシステムのハードウェア部分について仕組みを解説します。また、情報系の国家資格であるITパスポート取得を念頭に置いて行います。						
到達目標	①コンピュータシステムの仕組みを説明できる ②入力装置の機器と仕組みを説明できる ③出力装置の機器と仕組みを説明できる ④記憶装置の機器と仕組みを説明できる ⑤インターフェースの種類と特徴を説明できる ⑥インターネットの機器を説明できる						
授業計画	第1講 ガイダンス、コンピュータの五大装置 第2講 入力装置（ポインティングデバイス） 第3講 入力装置（キーボード、スキャナ、バーコードリーダー） 第4講 出力装置（ディスプレイ） 第5講 出力装置（プリンタ） 第6講 小テスト、中央処理装置 第7講 G P U 第8講 記憶装置（メインメモリ） 第9講 小テスト、補助記憶装置（磁気ディスク） 第10講 補助記憶装置（R A I D、S S D、フラッシュメモリ） 第11講 補助記憶装置（光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ） 第12講 小テスト、インタフェース（パラレルインタフェース） 第13講 インタフェース（シリアルインタフェース） 第14講 小テスト、ネットワーク（イーサネット、ルータ、ハブ） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 春日健、舘泉雄治 「計算機システム（改訂版）」 コロナ社						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（30分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（150分）。 「情報科学概論」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	<評価> 「小テスト」（40%）、「定期試験」（60%）						
授業内の課題・提出方法	<課題> 4回小テストを実施して提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小テストを実施した翌週の授業で内容の解説を行います。						
担当者から一言	ハードウェアは基本を理解できていると、仕組みはとても簡単です。しっかり復習を行って理解してください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	メディア概観			科目コード	381901	授業コード	425303
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	EIMM4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	テレビやラジオ、新聞といった従来のメディアは、インターネットの普及後、SNSなどのインターネットメディアが誕生することで多様化してきました。さらには、人工知能（AI）やVR技術をはじめとするテクノロジーの急速な進化によって人々の情報伝達やコミュニケーションも進化・変化を続けています。本講義は、文字の発明から現在のメディア社会に至るまで、メディアの歴史を学ぶと同時に、これからのメディアと私たちの未来を展望します。						
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのか？また、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったか？など、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げるのが本講義の最も重要なポイントです。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 文字 第3講 印刷 第4講 ラジオ 第5講 写真 第6講 映画 第7講 プロパガンダ 第8講 テレビ 第9講 モバイルデバイス 第10講 コンテンツメディア 第11講 デジタルコンテンツ 第12講 メディアと芸能 第13講 現在のメディア社会 第14講 メディアと人々のつながり 第15講 情報社会とインターネット 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小テスト及び課題（40％）、定期試験（60％） なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	メディア情報と文化			科目コード	381902	授業コード	421802
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	EIMM4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	私たちにとって最古であり、かつ根本をなすメディアは、自身の身体である。目で見、耳で聴き、手で触り、空気を感じた情報から心・表情・言葉・コミュニケーションが生まれ、文化が育った。人間固有の文化である祈り・祭りから様々な表現が分化して、歌・音楽・舞踊・美術・文芸などの芸術として発展して、多様なメディアとその上に載る感性情報の展開を導いた。 本授業では、人類社会の基層にある文化について学び、メディア情報と文化との関連性を理解するとともに、人間にとってメディアとは何なのかを考える。						
到達目標	メディア情報の歴史、人間文化の歴史の中で自分の立つ位置、現代のメディア情報の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 人間と文化 人間と動物の違い 第3講 人間と文化 人類はどのように世界にひろがったのか 第4講 人間と文化 文化をつくる脳の働き 第5講 人間と文化 神と祭り 第6講 人間と文化 祝祭のなかのメディア情報 第7講 人間と文化 祝祭から生まれたメディア情報 第8講 文化の諸相 文化の多様性 第9講 文化の諸相 文化の伝播と発展 第10講 文化の諸相 文明の生態史観 第11講 文化の諸相 文化の衝突 第12講 文化の諸相 文化相対主義 第13講 メディア情報と文化 伝統の智慧 第14講 メディア情報と文化 技術が造る現代の祭り 第15講 まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。						
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り（90分）、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい（90分）。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。						

授業科目名	映像概論	科目コード	381903	授業コード	423403
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	EIMM4003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に、様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて、映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが晴れるようになる。 ②授業を通じて、一通りの映像制作のノウハウを学び、スキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 みんなのGWを見てみよう ～プレゼン大会～ 第5講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第6講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第7講 映像の新しい可能性 ～Gopro/ドローン操作演習～ 第8講 報道記者になった留学生 ～モンゴルから来た学生が報道記者になるまで～ 第9講 映像ビブリオバトル① 第10講 映像ビブリオバトル② 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 落語が描く脳内映像 第14講 放送と配信 第15講 絵コンテを描こう ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、テキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。 見ることすなわち学習です。 さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換し、それを実作業に落とし込む練習を積んでください。 とにかく、よく見てよく読む。 これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業への取り組む姿勢：30% 課題への取り組み：30% 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、授業課の提出用レターケース、MOODLEのなかで、最も効率よく提出できる方法を、課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	音響照明概論			科目コード	381904	授業コード	423805
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信			科目ナンバリング	EIMM4004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	現在の舞台芸術やメディアコンテンツの制作は、専門的な技術を駆使しています。メディア表現において、技術を使いこなすことは重要な要素ですが、その前に基礎を理解することで、多様なメディア分野に適応することができます。本講義では、音響と照明に関するそれぞれの基礎知識や効果、理論について広く学びます。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとって、この講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。						
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識、また、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気の基礎」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	プログラミング実習基礎			科目コード	382001	授業コード	421803
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	EIMT6001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、JavascriptはWebページで使われていて、ページに動きを付けたり、入力フォームのチェックをしたりすることなどに使われています。 この講義では、フローチャートで示されたアルゴリズムをJavaScriptで実現することで、アルゴリズムの理解とプログラミングの基礎とデバッグの基礎を学びます。						
到達目標	①フローチャートで記述されたアルゴリズムを理解できる ②フローチャートで記述されたアルゴリズムをJavaScriptでプログラミングできる ③JavaScriptをデバッグできる						
授業計画	第1講 ガイダンス、プログラミングとは 第2講 JavaScriptの入力と実行 第3講 データ型と変数・定数、演算子 第4講 入力と出力 第5講 フローチャート（1） 第6講 デバッグ 第7講 ifによる条件分岐 第8講 フローチャート（2） 第9講 switchによる分岐 第10講 フローチャート（3） 第11講 forによる繰り返し 第12講 whileによる繰り返し 第13講 フローチャート（4） 第14講 フローチャート（5） 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 狩野 祐東 「確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版」 SBクリエイティブ						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、演習問題を行うこと（120分） 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「プログラミング実習応用1」で学習します。						
成績評価方法	「提出物」（40%）、「定期試験」（60%）						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回授業で課題演習をMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出された課題に対してMoodleでコメントします。						
担当者から一言	プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	グラフィックツール1			科目コード	382101	授業コード	425201
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	EIMP6001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illustratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 4.色の基本（CMYK/RGB・面と線 など） 5.自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 6.自由曲線2（下絵をトレースして着色） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.その他ツール（グラフ・フィルター など） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザインデータ作成時の機能活用について 12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	グラフィックツール2			科目コード	382102	授業コード	425602
担当教員	西尾 秀樹			科目ナンバリング	EIMP6002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 4.色調整・サイズ調整 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工 10.illustratorとの連動 11.フィルター・その他ツール 12.デザインの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。						
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	感性と創造			科目コード	382110	授業コード	425603
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	EIMP6003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS文化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	①メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ②作品の完成に向け建設的な取り組みができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 写真を読む 第3講 写真を撮る 第4講 発表～ディスカッション 第5講 作品鑑賞～分析 第6講 映像の構成について 第7講 ストップモーションムービー(構成) 第8講 ストップモーションムービー(撮影1) 第9講 ストップモーションムービー(撮影2) 第10講 ストップモーションムービー(編集1) 第11講 ストップモーションムービー(編集2) 第12講 発表～ディスカッション 第13講 作品鑑賞～分析 第14講 AIで作品づくり 第15講 発表～まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						